

「雪の中のアカゲラ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

北軽井沢にはたくさんの鳥類がいるが、アカゲラもその一つだ。アカゲラはこのあたりでは一番よく見かける「キツツキ」の一種で、名の通り、お腹のあたりと頭の後ろが真っ赤なのが特徴である。

アカゲラはどちらかといえば、厄介者に属する。アカゲラはキツツキなので、当然樹木の幹をたたく。それだけならいいのだが、厄介なのは、住宅の壁にも穴をあけてしまうことだ。特に普段人気（ひとけ）のない別荘は格好の餌食で、あちこちに穴を開けられている建物も見かける。穴を開けてそこに巣でも作るなら、まあ仕方ないな・・・と思うのだが、ただ穴を開けるだけなのである。困ったことに、その穴から、小動物（主にネズミ）が入り込んで、屋根裏に住みついてしまうこともある。

私はアカゲラが「穴あけ作業」をしていると「コラっ!」と追い払う。すると、「ケッ! ケッ! ケッ!」と人を馬鹿にしたような声を出して逃げる。それでいて、数分後には戻ってきて、同じことをする。これが

アカゲラが厄介者たる理由である。地元の人は親しみ(?)を込めて「バカゲラ」なんて呼んでいる。



鳥類は冬眠しない。アカゲラも真冬でも雪の中で生活している。今日も雪の中、庭のモミジの木にアカゲラがやってきた。他にあまり野鳥を見かけない時期、こんなアカゲラでも歓迎したくなる。



「雪の中のアカゲラ」

北軽井沢栗平

2015, -2, -8

撮影 ; C. Tanaka